

■ 拠点づくりにあたって大切にすべき視点と考え方

ワークショップでは、住みなれた白石区のまちの課題や新しい拠点づくりのあり方に関する議論から始まり、施設に求められる機能や空間づくりのあり方などについて活発な意見交換を行いました。

その中で、大切にすべきポイントが浮かび上がりました。それらを元に「拠点づくりにあたって大切にすべき視点」として4つの柱を導き出し、さらに議論を深めました。

- ◎：概ね一致した意見
- ：比較的一致した意見
- ・：その他の意見

1. わかりやすく、利用しやすく、安全な施設

わかりやすい施設づくり

1-1. わかりやすい窓口配置や案内機能

- ◎見渡しが良く、どの手続きはどこの窓口に行くか、わかりやすい窓口配置にする。
- ・総合案内窓口や、メインとなる入口へ案内板を設置する。

1-2. 駅前の立地を生かした街の顔づくり

- ◎メインの入口については、拠点の顔となるよう、地上と地下をつなぎ、自然光を取り入れたり吹抜けで入りやすい空間として整備し、展示やイベントにも活用できるものにする。
- ・地下空間の活用も図る。

1-3. 街に向けた施設の顔づくり

- みどりや憩いの空間など、街（幹線道路）に向けた施設の顔づくりを考える。（駐輪場は幹線道路側に配置しない。）

利用しやすい施設づくり

1-4. 利用しやすい機能配置・施設づくり

- ◎区役所窓口の低層部への配置など利用勝手・利用頻度を考慮した機能配置を行う。
- バリアフリーを重視した施設づくりを行う。
- 待合スペースやロビーは十分な大きさを確保し、執務空間を含めてフレキシブルな空間とすることで混雑の解消と憩いを確保する。
- 子どもの一時預かり施設があると良い。
- ・施設低層部や地下などの利用しやすい位置に図書室や飲食機能を配置する。

1-5. 区民への利便機能を備えた民間施設

- ◎レストランやカフェなどの飲食機能
- 診療所や飲食可能な大ホール
- ・スーパー、銀行、本・CDショップなど
- ・行政サービスを補完する機能があると良い。

1-6. 地下鉄駅からのアクセス性を確保

- ◎地下鉄駅から庁舎へ、外に出なくても直接アクセスできるようにする。

1-7. 駐輪・駐車場は適切な規模・位置に整備

- ◎駐車・駐輪台数は十分な規模を確保する。
- 周辺幹線道路への影響に配慮した位置に配置する。
- 停車スペースの確保など、ちあふるへの送迎に配慮する。

安全性の確保

1-8. 防災拠点としての施設づくり

- ◎災害時に避難・対策活動スペースとなる広場機能をわかりやすい位置に確保する。
- 強度の耐震構造、防災設備、備蓄機能、防災用水を整備する。

2. ゆとりと快適性があり環境に配慮した空間

ゆとり空間の創出

2-1. 空間構成を工夫してオープンスペースを確保

- ◎屋内・屋外のオープンスペースや吹抜け空間の確保に配慮した空間構成を検討する。（例えば、庁舎の高層化や、駐車場・駐輪場の整備形態の工夫など。）

2-2. 庁舎と民間施設の間を有効活用し、ゆとり感を創出

- ◎庁舎と民間施設の間をアトリウムやアーケード、緑の配置等によりつなぎ、ゆとり感と一体感を生み出す。

快適性の確保

2-3. 緑豊かな空間づくり

- ◎広場や屋上、交差点部や沿道等の植栽を充実するとともに、室内であっても自然光が入るなど緑豊かな空間をつくる。
- ・区の花ツルバラを活用する。
- ・周辺の緑を結ぶネットワークづくりを行う。

2-4. 憩いの空間づくり

- 高齢者がゆったりと憩える快適な空間づくりを行う。（図書閲覧コーナーの設置など。）
- ・公園的な空間をつくる。

環境に配慮した施設づくり

2-5. 省エネ推進、長寿命建築の実現に配慮

- 自然・未利用エネルギーを活用するなど環境負荷に配慮した省エネ設備を導入する。また、それらを学習できる機能を導入する。
- ◎長期的な使用と耐久性を考慮し、将来を見据えた長寿命建築の実現を目指す。

◎：概ね一致した意見
○：比較的一致した意見
・：その他の意見

3. 区民交流(縁づくり)の拠点

多様な魅力づくりと世代間交流

3-1. 多様な交流を促す施設・空間づくり

◎子ども、若者、高齢者など多世代の人々、地域団体、企業などが集い、利用し、交流が生まれる魅力の高い施設・空間をつくる。
・充実した図書コーナーやDVDコーナー、学習スペース等の導入を検討する。

3-2. 多機能なホール機能を導入

◎スポーツ、音楽、演劇、イベントなど、若者のニーズにも対応できる多機能な施設とする。
○間仕切り等で分割して使えるホールとする。
・行政として実現が難しいものは、民間側へ整備・協力を働きかける。

4. 白石のまちづくり活動やまちの活性化を促す拠点

地域交流の促進とまちの活性化

4-1. まちづくり活動や区民生活をサポート

○産業振興や起業家支援、NPO活動の支援などを通してまちの活気づくりに取り組む。
○区民センター等の公共的な施設やまちづくりサポート機能を民間側にもたせる。
・区民センターを活用してまちづくり活動を促進する。
・子どもや学生と地域・企業を結びつける場をつくる。
・国・道と連携したサービスや、行政の範囲を超えた区民への総合的な相談サービス機能を検討する。

白石のまちの魅力発信

4-2. まちの情報発信

◎地域活動、歴史文化、商店街・地元企業によるまちの活動・魅力を、展示やイベント等により情報発信し、次世代にも伝達する場をつくる。(郷土資料館のような機能の導入)

周辺地域と調和したまちづくり

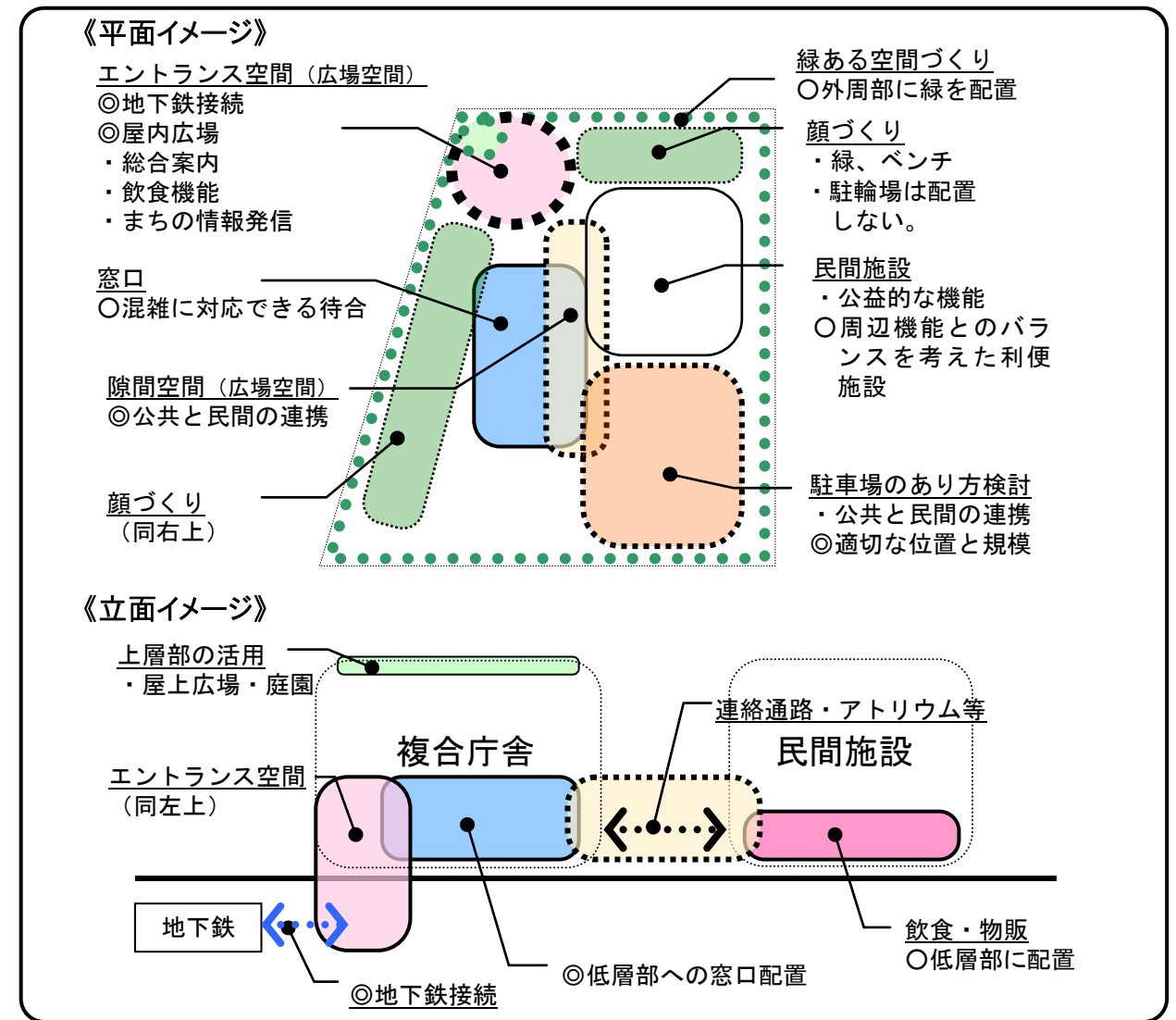
4-3. 周囲の機能とのバランスに配慮

◎周囲の既存施設とのバランスに配慮しながら、民間施設の併設により活気づくりを行う。

■施設・空間づくりの考え方

ワークショップのまとめのうち、必要機能の位置など、空間的な整理ができたものを以下のとおりまとめました。

◎：概ね一致した意見
○：比較的一致した意見
・：その他の意見



■今後の検討課題

① ゆとりづくりのあり方

地域中心核である白石駅前に求められる街の“ゆとり”空間のあり方として、限られた計画地の中で空間を生み出す工夫が必要である。誰もが気軽に立ち寄り、多様な交流や情報発信を促すオープンスペースの創出についても検討が必要

② これからの区民センター等のあり方

地域の活性化、交流づくりに資する区民センターが必要である。若者の発想を含め多世代が利用できる施設・機能づくりが求められる。

③ 新しい施設運営(ゆとり空間・区民センター等)における市民参加のあり方

新しい拠点には、ゆとり空間や区民センターなど多機能な施設が求められる中、多くの市民に利用される質の高い施設運営を行うには、市民の参加・協力など運営方法の検討が必要。